2024_1110「7.3 等級の彗星（写真）」日々の理科 3748 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

10 月には肉眼でも見えるほどに増光した「紫金山・アトラス彗星」も、11 月中旬が近づくと、7 等級台まで減光してきました。太陽からどんどん離れてきているからです。ほとんどの天体写真家は、すでに撮影をあきらめていて、あれだけ賑わった「二度上峠（にどあげとうげ／高崎市と長野原町の境界の峠）」も、今は一人の観測者もいません。

しかし、天体写真儀「Seestar（シースター）」は、まだまだ彗星を鮮明にとらえ続けています。通常の天体写真撮影では、望遠鏡や望遠レンズに接続したカメラのファインダーを覗きながら、対象天体を視野の真ん中に導入します。彗星の場合、光度が 2 等級台でも、ファインダー越しに尾は見えず、中心核（コマ）も淡い光芒なので、相当に慣れていないと導入は難しいのが普通です。しかし「Seestar」の場合、機器の方位と水平の補正（1～2 分で完了する）さえしておけば、あとは全自動で彗星を導入してくれます。

この日の「紫金山・アトラス彗星」は、すでに実施等級が 7.3 等でしたが、まるで「ヘール・ボップ彗星」が最も明るかった時のように写っていました。驚異とした言いようがありません。ヘール・ボップ彗星とちがうのは、白い「ダスト・テイル（塵の尾）」だけがはっきり見え、青い「イオン・テイル（イオンの尾）」はほとんど見えないことです。今後この彗星は更に減光し、いずれ 10 等級以下になりますが、どこまで写せるか続けて観測してみたいと思っています。

2024 年 11 月 8 日
北軽井沢
Seestar で撮影
180 秒露光